

## 2013年9月通常会議 議案に対する反対討論

2013年9月24日

岸本典子

私は日本共産党大津市会議員団を代表いたしまして、先ほど行われました各委員長報告のうち、  
[議案第132号](#) 平成25年度大津市一般会計補正予算（第7号）  
[議案第136号](#) 平成25年度大津市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）  
[議案第156号](#) 大津市廃棄物の処理及び再利用の促進並びに環境の美化に関する条例の一部を改正する条例の制定について  
[議案第159号](#) 大津市自転車駐車場条例の一部を改正する条例の制定について、

以上、議案4件について反対討論を行います。

まず、議案第132号 平成25年度大津市一般会計補正予算（第7号）についてですが、今回の補正予算では、民間保育所の運営助成や施設整備補助など子育て支援や、鳥獣害対策強化事業、土地埋め立て等対策事業などかねてからの住民要望に応える予算など評価すべき点もありますが、一方で、JR大津駅の利用者等に対するニーズ調査経費として大津駅・県庁周辺活性化事業費が含まれています。

大津駅舎の再生計画に対し、事前にJRが行った調査で、商業施設としてのポテンシャルが低いとの結果から、「単独での再整備は難しい」との判断に至り、市に協力要請されたのを受けて、商業分野以外に市が関与できる可能性を探るための調査を行うものですが、我が会派は、これまでも、JR大津駅舎整備管理費や南口改札口に対する負担など、多額の内部留保を持つ大企業、交通事業者として、JRが公共的、社会的責任を果たすべきで、大津市がこのような負担を行うべきではないことを指摘してきました。

また、大津市はこれまでに、中心市街地の活性化を目的に、多額の予算を費やし、大津駅周辺の再開発や駅前整備などを行ってきましたが、活性化には、ほど遠い現状です。そのような中で、行われる調査は、さらに、新たな負担につながるもので、現時点で、補正予算を組んでまで行うべき事業ではないと考え、本予算に反対するものです。

次に、第136号 平成25年度大津市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）ですが、本制度は75歳以上のお年寄りだけを切り離し、収入がなくても保険料が課され、全額免除を受けるには厳しい制約があります。保険料は2年ごとに改定され75歳以上の人口と医療費の増加に伴い際限なく上昇します。「医療内容の切り下げ」か「保険料値上げ」か、どちらをとっても痛みしかない選択を高齢者に迫るものです。

今回、調査員を増員し、きめ細やかな相談に応じるとされていますが、あくまでも、目的は収納率の向上で、滞納者の多くは低所得者です。

日本共産党はかねてより、このような制度そのものに問題があり、後期高齢者医療制度を廃止し、元の老人保健制度にもどすことを国に求めていることから、本議案に反対するものです。

次に、議案第 156 号 大津市廃棄物の処理及び再利用の促進並びに環境の美化に関する条例の一部を改正する条例の制定です。本議案は各ごみ処理施設への持ち込み手数料の改定と事業所の産業廃棄物の処分手数料を新設するものです。

事業者に応分の負担を求め、事業者としての責任を果たすことに反対するものではありませんが、中小零細の事業者にとっては厳しい経済状況が続く中、負担増はさらなる経営圧迫が懸念されます。また、市民にとっても、持ち込みごみなど、負担を強いることとなることから、議案第 156 号に反対します。

最後に、第 159 号 大津市自転車駐車場条例の一部を改正する条例の制定についてです。小野駅駐輪場整備は合併建設計画に基づくもので、さらに、地元地域からの要望を受けてとされています。しかし、一方で、施設常任委員会の審議の中で採算の見込みのある駅ということも整備の理由とされています。

小野駅の駐輪場は志賀町時代に一度、整備が計画されましたが、近隣に有料の駐輪場があり、選択の自由を残してほしいなど、整備計画に反対の声が多く、白紙になった経緯があります。

また、志賀中学校に通学する生徒の利用も多く、大津市になり、遠距離通学費の補助が 2 分の 1 と減額され、小野駅から利用する生徒は、年間 14,880 円の定期代の負担に加え、駐輪場代 12,600 円と定期代とほぼ同額の新たな負担となります。住民の理解も、いまだ不十分であることから第 159 号に反対するものです。

以上で反対討論を終わります。